

生涯学習

No.581

かおり高い
文化のまち

秋宮の南に巨大寺院があった!?

なぜ神様と仏様は同居していたのか?

諏訪神仏プロジェクト企画局長

石埜 いしの 三千穂 みちほ



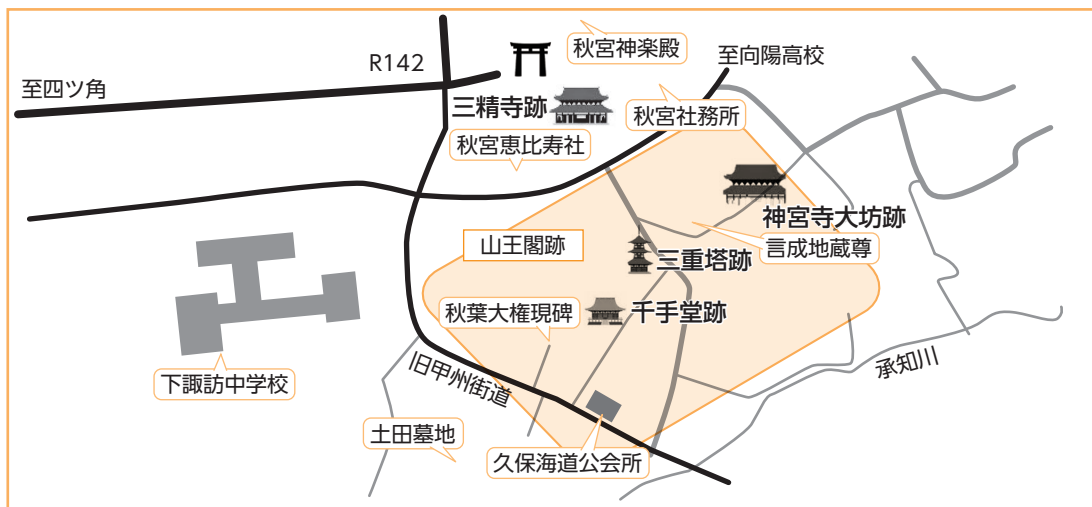
「下社神宮寺」、諏訪大社下社と一体のお寺の境内だったのです。

江戸時代まで、ここ下諏訪町に大きなお寺があったこと、みなさんはご存知でしょうか?
「大きな」といっても、おそらくその規模はみなさんの想像を超えています。まずは秋宮の南、山王閣の跡地「山王台」に立って諏訪湖を望んでみてください。

眼下に見える窪地一帯、西は土田墓地、南は承知川まで、東、山側の台地上はおおよそ久保と武居の境界くらいまで、その全てが、



山王閣跡の山王台から諏訪湖を望む



旧跡については、昨年の本誌(2021・10月発行生涯学習569号)で紹介されています。
そこで今回は、もっとも根元的な疑問に答えたいと思います。
「なぜ、神社と一体のお寺があったのか?」。

また、「どうしてそんな大きなお寺が跡形もなく消滅し、忘れられてしまったのか?」という疑問も当然あると思います。が、それについてはより複雑かつデリケートなテーマとなりますので、またの機会としておきましょう。

神様と仏様の混在、「神仏習合」については、高校で習う「本地垂迹」ほんちすいがよく知られています。「仏様が、日本の民にとって親しみやすいような仮に神様の姿をとって現れる」という考え方です。

この思想が神仏習合の基盤となります。しかし、それがすべてではありません。本地垂迹が定着したのは平安末から鎌倉初期頃で

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
メール syougai@town.shimosuwa.lg.jp

◎諏訪湖博物館10月の休館日は、3・11・17・24・31日です。

すが、それよりもはるか昔から、さまざまな事情で神仏は同居していました。

たとえば奈良の大仏。千三百年も前にあんな巨大な銅像を建てると、想像を絶する難事業です。そのため、はるか九州から八幡様がやってきて、大仏建立を守護したのです。「護法神」という考え方で、たとえば阿修羅や四天王は仏教以前の古いインド土着の神だったのですが、釈迦の教えに感服し、守護神となりました。

もう一つは、神も宿業に苦しんでおり、そのために災害を起こす。ゆえに仏門に帰依して救われたいと望む、という設定です。奈良時代、最古の神宮寺の由緒がこれです。

どれを取っても仏様が上位に立っているようにみえる点に違和感を抱く方もいるでしょう。

その理由として、一つ、神様は、災害を防ぐとか恵みをもたらすといった社会全体に寄与するスケールの大きな祈願をするものでした。

対して仏様は、生き方を説き、

個人個人の苦しみに対処しようとし、哲学の一種といえます。うか。特に、命の危機に怯え、また命を奪う罪の意識に苦しむ戦乱の時代を生きる人々にとって、仏の教えはより強く、より身近に響いたことでしょう。

今一つ、神様は「教え」を持ちません。理論がないのです。故に、信仰として体系化し社会的な影響力を持つために、仏教の教理が助けとなりました。

つまるところ、補い合っている信仰体系をつくり上げてきたのです。それが証拠に、仏教だって日本に入ってから大いに変化しているのです。

たとえば、現代日本の仏教の主たる機能はお葬式と法事です。しかし、「亡くなった人が仏様になる」という考え方は大陸の仏教にはありません。祖霊信仰は、日本古来の（ひよっとしたら縄文時代からの）価値観です。これに、仏教は適応しました。

また、「あるがままの大自然への畏敬の念」という日本人の根幹ともいえる価値観と日本の仏教は

融合しました。だから古代より山に入って修行し、自然との一体化を目指してきたのです。

この秋、「諏訪上下社神宮寺由来仏像一斉公開」という一大イベントが行われます。

神宮寺由来の仏像は五十体以上が現存し諏訪中のお寺に分散しています。

下社三重塔の胎藏界大日如来像が岡谷の照光寺に。

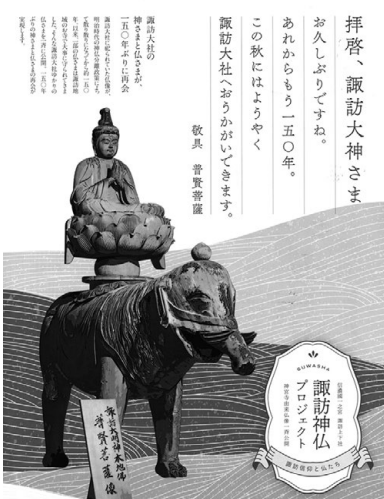
秋宮三精寺の阿弥陀如来像が長地の平福寺に。今、

仏像を所蔵する各寺院で公開されます。

諏訪湖博物館でも企画展

(10月1日(土)～11月27日(日))

が行われ、下社神宮寺の実態に迫ります。もちろん、上社も同様に。画期的なイベントですので、ぜひ触れてみてください。(詳しくは、「諏訪神仏プロジェクト」公式ホームページをご覧ください。)



令和4年(2022年)秋 諏訪地域の各寺社で一斉公開



平福寺 秋宮三精寺 阿弥陀如来坐像



照光寺 下社三重塔 胎藏界大日如来坐像

石埜三千穂氏による講座
「諏訪大社下社神宮寺の歴史と仏像の今」
を開催します。
10月16日(日) 午前10時～11時30分
問合せ 下諏訪公民館 ☎28100002

「下諏訪町子ども読書活動推進計画」

読書に親しむまちづくり

豊かな心と人との温かな関りを育む

下諏訪町教育委員会

近年ではスマホやパソコンなどメディア機器の利用が進み、読書離れが問題になっていきます。

子どもの読書習慣は、脳の発達と関係しているため、乳幼児期から絵本を読み聞かせるなど、子どもにとって本を読むことが楽しい時間となるような家庭での働きかけが大切です。

国は、2000年を「こども読書年」とし、2001年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。県では、「長野県子ども読書活動推進計画」を策定し、2020年には第4次が出ています。

下諏訪町では、2013年に南信地区図書館教育研究協議会が催されたことを契機に、町P

TA連合会、保育園保護者会、「家庭読書の日」を設け各家庭に呼びかけるようになりました。

町の社会教育委員会でも「家庭読書」を手だてとして家庭内のコミュニケーションや親子の触れ合いを生み出し家庭教育力が向上することを願い、「家庭読書」の普及に努め、町ぐるみの取り組みとなりました。

そして、町図書館・保育園・学校・保健センター・子育てふれあいセンター、読書ボランティアなど、子どもの読書に関する関係機関や団体で「読書推進委員会」を組織し、各取り組みを「下諏訪町の読書推進」としてまとめました。それを基に今年度「下諏訪町子ども読書活動推進計画」として策定しました。



対象は、概ね0歳から18歳まで。計画期間は、2022（令和4）年度から2026（令和8）年度までの5年間です。

「家庭読書の日」の周知を図るために「第2日曜日は町内一斉家庭読書の日」のポスターを年4回作成し配布しています。ポスターの制作は町内の児童生徒によるものです。また、「町内一斉家庭読書の日のお知らせ」のおたよりを園・学校を通じて各家庭へ届けています。

「読書推進委員会」では、下諏訪向陽高等学校の生徒が中心になって進めている「下諏訪Bookプロジェクト」と、「わたしがすすめる一冊の絵本の紹介」の巡回展示に連携して取り組んでいます。

子どもが活字に抵抗がなく、読むことが楽しいと思えるかどうかは、小さい時からの働きかけが重要となります。スマホではなく、人のぬくもりを感じながらわらべ歌や肉声で絵本を読み聞かせるなど、語りかけが人との信頼関係を育み、子どものことばや心を育てます。

保育園、小・中・高校でも読書への働きかけが熱心に行われていますが、家庭でも町図書館を利用するなど、本が身近にあり大人も子どもと一緒に読書する雰囲気をつくっていくことが大切です。

左ページの「しもすわっ子読書の木」は、豊かな心と温かな人との関わりを目指して、発達段階に応じた読書活動の支援を示しています。



しもすわっ子読書の木

生きる基盤としての言語力

温かな
人とのかかわり

豊かな心

下諏訪町図書館

日常の読書支援

- ・ 図書館祭り
- ・ 子ども読書週間
- ・ テーマボックス (家庭読書の日)
- ・ 「どの本読もうか？」おすすめ本リスト
- ・ 図書資料の提供

学校

読書大好き・図書館大好き

- ・ 朝読書
- ・ 読書活動カリキュラムの作成
- ・ 読書習慣
- ・ 学校図書館の充実と活用
- ・ 家庭読書のすすめ
- ・ 下諏訪Bookプロジェクト

読書ボランティア

読み聞かせなど読書支援

- ・ おはなしのへや
- ・ なぎがまコミュニティスクール(南小・下中)
- ・ ノース下諏訪ネットワーク(北小・社中)
- ・ やまびこ(録音図書)の会

町PTA連合会・保育園保護者会が勧める「家庭読書の日」

読書を通じての親子のコミュニケーション(同じ行動・時間の共有)

読書は
知識の宝庫

保育園

おはなし大好き・絵本大好き

- ・ 毎日の読み聞かせ
- ・ 保育の中での絵本の活用
- ・ わらべ歌遊び
- ・ 絵本コーナーの充実
- ・ 絵本貸出し
- ・ 保護者への読み聞かせの啓発
- ・ 職員の研修

読書は
心の糧

セカンドブック

2歳のお子さんに絵本の
プレゼント

家族と一緒に絵本を楽しみ、
読書の楽しさや喜びを感じる。

下諏訪町図書館

子どもと本をつなぐおはなし会

- ・ おはなしのへや (4歳以上)
- ・ おはなしのへや プチ (3歳以下)
- ・ セカンドブックプレゼント(2歳)

ことばとところが育つ

絵本を介しての語りかけ

ファーストブック

6か月の赤ちゃんに絵本の
プレゼント

ぬくもりを感じながら、
「耳からの読書」で親子の
絆を深める。

子育てふれあいセンター

言葉を育て親子の絆を深める「語りかけ」の大切さ、絵本の選び方

- ・ 2歳児相談 ことばの個別相談
- ・ おはなしいっぱい (1~3歳)
- ・ ファーストブックプレゼント (6ヵ月児)
- ・ ファーストパパとママのつどい (6ヵ月児)

家庭

わらべ歌・肉声での絵本の読み聞かせ

放課後子ども教室

児童が自由に遊び、作り、学べる場



放課後子ども教室に関わって10年目になります。

放課後子ども教室コーディネーター

おびなた かずひこ
小日向 和彦（西赤砂）

地域に子どもたちが安心して遊ぶことができる場所がない、近所に一緒に遊ぶ友達がいない、といった子どもたちを取り巻く現状を受け、「下諏訪放課後子ども教室」は、

町（町青少年健全育成協議会共催）が実施主体となり、小学校の余裕教室等を活用して子どもたちの安心・安全な居場所を確保し、地域の方々の参画のもと、様々な遊び・体験の機会を提供することにより、子どもたちの健やかな育成を支援することを目的とした取り組みです。

（「下諏訪町放課後子ども教室令和4年度利用のしおり」下諏訪町教育委員会作成）

下諏訪町では、児童の居場所づくりの一環として、毎週水曜日の放課後に「放課後子ども教室」を下諏訪南小学校、北小学校両校で開所しています。

各校の空き教室や体育館、校庭で、工作や身体を使った遊び、手芸など、子どもたちが自由に安全に活動できる場を提供しています。

今年で14年目を迎え、今年度は南小学校で267名、北小学校で88名が登録しています。両小学校の児童であれば誰でも、いつからでも登録、参加できるのが特徴です。

例年は、4月に開所式を行い、

1年生は学校に少し慣れたゴールデンウィーク明けからスタートしますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スタートが6月に遅れました。開所式では、危険がないよう約束事を伝え、スタッフの紹介をしています。

南小学校12名、北小学校7名の地域の大人で子どもたちが安全に楽しく遊ぶことができます。また、スタッフは率先して子どもたちにあいさつや声かけをして、遊びを考案しています。

スタッフは開所30分前に集合して、学習スペースを設営したり、工作や遊び道具などの準備をしたりしています。その後、ミーティングをしてその日の見守り分担を確認しています。

南小学校では、大体育館で球技やバドミントン、小体育館で一輪車や卓球、ジャグリングなど、ロビーで工作や学習、手芸、将棋をしています。晴れの日には、校庭でサッカーや遊具で遊んでいます。



ビニールシートを敷いて机を置いた学習スペース

また、季節に合わせ、七夕飾りや松ぼっくりのクリスマスツリー、折紙でのひな人形づくり、「なかよし川辺」で水遊びなどをしています。

北小学校では、小体育館で球技や鬼ごっこ、バドミントンなど、多目的室では工作や手芸をしています。そして、終わりの時間前には、全員でドッチボールをしています。

放課後子ども教室は、地域の大人から工作や遊びを教えてもらう

貴重な機会となっています。子どもたちにとっては、学年を超えての友だちづくりや新しいことへの挑戦、友だち同士で協力し合うなど、心身ともに成長できる場となっています。

安全で楽しい場所になるよう、スタッフは安全研修を行っています。大きなケガが発生しないよう注意して見守りをしています。参加する人数が多いので、ぶつかることもあり、けんかになることもあります。そうした時は、帰りの会で、遊び方についてみんなで考える機会を設け、子ども達と一緒により良い活動ができるように努めています。

時代が変わり、ネット環境の発達により遊びの形が変わっても、毎週約200人の子どもたちがエネルギーギッシュに遊んでいる様子を見ると、この活動をずっと続けていかなければならないと強く思います。

また、近年はコロナ禍により一時休止することもありましたが、子どもたちから「いつ再開するの？」「早く子ども教室で遊びた

い。」との声が多く、子どもたちもこの場所を楽しみにしていることを感じます。

スタッフも「子どもたちから元気をもらえる」と、活動を楽しみにしています。

興味がある方は、ぜひ一度、放課後子ども教室を見学に来てください。子どもたちの笑顔とパワーを実感し、笑顔になっていただけたらと思います。

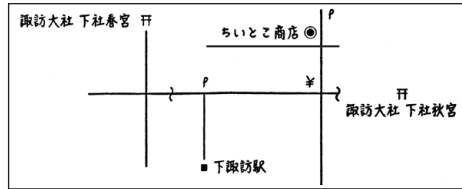


◎下諏訪町健康ステーション・健康フィールド10月の休館日は、4・7・11・18・25日です。

駄菓子とビールとコーヒーのお店

ちいとこ商店

伊藤 慎太郎・奈々 (御田町)



営業時間
10:00~22:00
定休日
火曜日 (不定休あり)

2020年7月御田町商店街にこのお店を開業させました。その名の通り、日本国内の樽生クラフトビール・エスプレッソコーヒー、そして駄菓子のお店です。「駄菓子とビールとコーヒー」、不思議な組み合わせだね。」とよく言われます。「そうでしょ」と私たちも笑って答えます。一見交じり得ないこの3つ。だけど共存するのは、ちゃんと訳があります。

開業を夢に夫婦それぞれが大切に育ててきたクラフトビールとコーヒー。そこに駄菓子が加わったのには「大人だけの楽しみの壁の高さ」の経験からでした。産まれたばかりの息子と一緒に外出を楽しむためのアイデアを、開業を目指す私たちのお店に組み込むことはとても重要であり、使命感さえありました。大人だって楽しみたいし、子どもだって楽しみたい。お父さん・お母さんになつたって楽しみたいのです。〈こどもの楽しみ〉を考えたとき、パツと蘇るのは幼い頃の日常にあった駄菓子屋さんの思い出。大人の世界にこどもの井戸端会議が始まるような〈こどもの社会〉があってもいい。お家や学校でないもうひとつの場所。そして大事なこと。私たち家族

の外出時の不安要素であった授乳室・オムツ替え室を設けること。少しでもゆつくりと気持ちよく過ごせるように。美味しいものを丸飲みするような悲しいことになりませんように。

旅で初めて下諏訪を訪れた5年前。見て感じる自然の景色や空気や音が、凝り固まった頭と身体に風を送ってくれ、出会う人たちはいつも私たちを楽しい思考へと刺激してくれました。

私たちにとって特別なこの町でお店を始めて丸二年。



私たち家族を受け入れてくれた御田町商店街のみなさんの存在は、温かく本心に強いものです。そして、目の前で繰り広げられる理想としてきたお店の姿が私たちを嬉しい気持ちにさせてくれます。



「ビールとラムネで乾杯するパパとぼく。お茶の合間に授乳室をお借りします。ばあばと手をつないで駄菓子のお買い物。」

最後に、「ちいとこ商店」とは「ちよつとした」を意味する私たちの造語です。

どうぞ、ちよつとした気分で、ちよつとした時間に、ちよつとした用で、気楽にお立ち寄りください。



～図書館まつり 2022～

読書手帳ももらえるよ!



今年下諏訪町立図書館が開館して20周年です!それにあわせてイベントも盛りだくさんです。是非お越しください!

10月15日(土)

講演会&ワークショップ

「折り紙のびっくり」

10:00~ / 13:30~

講師: 布施知子先生
各回定員30名(要予約)
小学3年生以上(折り鶴を折ったことがある方)

10月22日(土)

10:30~

おはなしの広場

社中生読み聞かせ
おはなしのへや人形劇など

14:00~

あほうどり 朗読

10月29日(土)

10:00~

◆リーディング風 読み語り
◆体験しよう! 朗読・点字

11:00~

花とみつばち 演奏会

14:00~

朗読のおくりもの

やまびこの会

展示

期間: 10/15~10/30

・下諏訪Bookプロジェクト
「下諏訪町の読書の木」
を育てよう!
・紙芝居「あべこべじどう
はんばいき」原画展
・下諏訪俳句会 作品展示

■ 問い合わせ

下諏訪町立図書館

☎27-5555

新型コロナウイルスの感染状況等によって、イベントの内容は変更・中止になる場合があります。予めご了承ください。

下諏訪町教育長杯 第21回チャンスボール大会



● 日 時 10月2日(日)

受付開始 8:00~ 開会式 8:30 ~ 終了 12:30頃

● 会 場 下諏訪体育館 アリーナ

● 募集数 12チーム(1チーム5人以上の編成) 男女混合・年齢は問いません

● 参加費 無料

◆ 当日は運動のできる服装で、上履き、マスク、タオル、飲み物をご持参ください。

チャンスボールは、カーリングとマレットゴルフを合わせた下諏訪生まれのニュースポーツです。中央の的を挟んで交互に球を打ち合い、得点ゾーンの合計点が高いチームが勝ち。最後の1球で逆転のチャンスがあるため、「チャンスボール」という名前がついています。

10月のつえ

今年梅雨入り宣言後から連日の真夏日、梅雨明け宣言後からの連日の雨、そして7月下旬からは連日猛暑日に迫る日々となり、暑い夏が二回あったなと感じる気候でした。

そんな季節の移り変わりに沿う形で、我が子の野球チームの全国への挑戦が始まりました。

昨年の県大会で準優勝したことはありましたが、優勝候補の筆頭ではない我々チーム。初戦は危なげなく勝利し、準決勝は序盤リードするも追いつかれる苦しい展開の中、最終的に1点を取り何とか勝利。迎えた決勝戦の相手は過去にコールド負けをしたチームでした。初回に5点を先制しましたが、じわじわ追いつかれ逆転を許してしまいました。スタンドの保護者は大変重い雰囲気となり、心の片隅に「ダメなのか…」という想いが一瞬芽生えましたが、グラウンドの彼らは違いました。闘志を更に燃え上がらせ、全員でこの逆境を打破しようと泥だらけになりながら必死で相手に食らいつき、最後にはマウンドで歓喜の輪をつくることができました。

グラウンドで嬉し涙を流している選手を見て、これまでやってきたことが間違いではなかったんだと全て報われた気がして、自然と涙がこぼれ落ちました。あの時、みんなが共有できた感情は私の生涯で忘れることのできない特別なものとなっています。

全国大会は2回戦で敗れてしまいました。試合後にみんなが流している涙を見て、嬉しかったこと、楽しかったこと、苦しかったこと、辛かったことなどが巡り、また自然と涙が溢れ出しました。そして、この時の想いも私の大切な宝物です。

大変な状況の中、野球をさせてもらい、そして全員が無事に帰ってこられたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年の夏は、私の心の中にも間違いなく「熱い夏」が二回ありました。

(教育こども課 堀内 一真)